

2-1-2 子ども・子育て支援

細分野	5年後のまち【P】	5年後のまちの実現に効果のあった取組(効果のあった取組から順に)【D】	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠【C】
① 保育	①子どもの安全が確保され、子育てと仕事を両立させたい家庭やひとり親家庭が安心して就労できる環境が整えられている。	①1 待機児童解消に向けて、保育所の開設や保育士の確保に取り組めます。(こども課)	小規模保育園1園の開園により19人の定員増を図り待機児童解消に努めた。待機児童の多い地域を対象として、小規模保育所等の公募に取り組んだ。また、「資格をいかにしよう!相談会」、「保育園・こども園見学ツアー」及び「職場体験(インターンシップ)」を実施し、保育士の確保に取り組むなど、多方面から待機児童減少に取り組んだ。(R3.4.1待機児童数(実質待機):19人)
		①2 保護者のニーズに合わせた保育事業を継続するとともに、保育サービスのさらなる充実に取り組めます。(こども課)	公立保育所4園、私立保育所等23園のうち、全園で延長保育、私立9園で一時預かり保育、私立1園で休日保育、私立1園で病後児保育を実施した。また、病児保育を2か所実施し、保育者のニーズに合わせた保育サービスの充実に向けた。
	市民実感度 【市民満足度調査 R2.8月実施】 「5年後のまちが実現していると思う」+「どちらかといえば実現していると思う」の割合 38.2% (参考) 前回 -%	①6 子どもたちが地域の中で、安心して遊び、大人たちと交流できる場・機会を提供します。(こども課)	国が創設した放課後子どもプランの一つとして「放課後子ども教室推進事業」を実施し、放課後子ども教室を市内4小学校で開催した。また、令和3年度から放課後子ども教室を新規で実施予定の小学校関係者と連携し、開催に向けての取組を進めた(令和3年度から5小学校で実施)。
② 就学前教育	②就学前教育の充実と幼稚園の長時間預かり又はこども園化が進んでいる。	②1 多様化する保護者ニーズに応えるため、預かり保育の長時間化、実施日の拡大について検討します。(こども課)	南こども園と認定こども園生駒幼稚園において、1号認定児の早期・延長預かり保育を実施した。また、保護者からの要望が多い夏休み期間中の預かり保育の実施に向けて、壱分幼稚園でモデル事業を実施し、その結果を検証した上で、令和3年度から全園で実施することになった。
		②2 地域での幼稚園ニーズや園児数の推移等を勘案しながら、こども園化を含め、地域に合った幼稚園の今後のあり方を検討します。(こども課)	幼稚園のこども園化も含めた「生駒市立幼稚園のあり方に関する基本的な考え方」をまとめ、市民説明会及び幼稚園での意見交換会を実施するとともに、市民の意見を聴取するために、対象地域に地域協議会を設置した(市民説明会1回、意見交換会及び地域協議会4幼稚園で各1回開催)。
	市民実感度 【市民満足度調査 R2.8月実施】 「5年後のまちが実現していると思う」+「どちらかといえば実現していると思う」の割合 34.7% (参考) 前回 -%	②3 就学前教育の充実を図るため、幼稚園と地域、保育所、認定こども園及び学校との交流、連携を図ります。(こども課・教育指導課)	保幼小接続推進会議を年間2回開催し、年間を通じて交流を行った。また、年度末には校区ごとの取組を成果報告集としてまとめ、各校園に配布するなど、就学前教育の充実を図った。
③ 子育て支援	③地域や社会が保護者に寄り添い、親の成長を支援することにより、子どものより良い育ちを実現している。	③1 子どもたちが安心して成長できるよう、地域子育て支援拠点事業及びファミリーサポート事業等を一体的に提供することで、子育て支援体制を充実します。(子育て支援総合センター)	感染拡大防止に配慮しながら、みつきランド等の運営や、ひろば・講座事業等を開催した。様々な制約がある中、コロナ禍での子育てに不安を抱えた保護者からは事業の再開を喜ばれる声があった。また、ファミリーサポートでは、転換制度の導入、センターでの預かりなどを開始し、コロナ禍で激減していた会員登録数および活動件数が、後半で大きく伸びた。
		③2 子育てや家庭で心配なこと等の相談事業を実施し、子育て世帯を支援します。(こどもサポートセンター)	18歳未満の児童についての、育児や家庭のさまざまな心配ごとの相談を来所や電話で対応し、家庭相談員が子育て親子へ寄り添った。また養育支援が特に必要と判断した31家庭に、延べ120回の訪問支援を行い、サポートに努めた。
	市民実感度 【市民満足度調査 R2.8月実施】 「5年後のまちが実現していると思う」+「どちらかといえば実現していると思う」の割合 34.9% (参考) 前回 -%	③3 世代間交流を含め、子育てサロン等、地域で子育てを支え合う取組や活動を支援します。(子育て支援総合センター)	育児サークルに対して、本市の子育て支援に関する情報の提供や託児を行う等、活動場所の提供、各サークルの情報発信の支援を行った。また、地域で活動する子育て支援団体と連携し、世代を超えて地域で子育てを支え合う取り組みをサポートした。

「市民ができること」取組状況	【市民満足度調査 R2.8月実施】	「十分取り組んでいる」+「取り組んでいる」	(参考) 前回
① 子どもたちの見守り活動に参加している。		14.6%	-
② 園児とのふれあい活動に参加している。		8.4%	-
③ 子育て支援に関するボランティアやサポート活動を行っている。		5.5%	-

多様な主体との協創による取組【C】	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法【A】	指標【C】
潜在保育士を確保するため、市内保育園・こども園と連携した見学ツアー、相談会及び職場体験(インターンシップ)を実施した。放課後の子どもたちの安全・安心な居場所となる放課後子ども教室を、地域の方々の参画を得て開催した。	これまでの保育所整備の取組によって、定員数を増加し、保育需要の増加に一定対応することができたが、まだ、3歳未満児を中心に待機児童が見られるため、今後も小規模保育所等の整備が必要である。	① 保育所利用定員数(人)  2,304 2,380 2,424 2,625 2,625 2,674 2,724 2,724
	課題解決のために必要な要素【A】 <input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ( )	目指す値 R3 2,605
細分野の進捗度【C】	成果(進捗度選択の理由)【C】	実績値 R3 2,625
C1	子どもの安全はある程度確保され、待機児童数も減少しつつあるが、まだ完全には解消されておらず、安心して就労できる環境の整備にはもう少し努力が必要のため。	
多様な主体との協創による取組【C】	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法【A】	指標【C】
多様な主体から参画いただいている「生駒市子ども・子育て会議」において、多方面からの意見をいただき、各施策へ反映した。また、幼稚園のあり方については、幅広く意見を聴取できるよう、地域協議会を設置した。	全幼稚園で長時間の預かり保育を実施するためには、人員確保が課題となる。正職員で対応できない部分は会計年度任用職員を雇用できる財源を確保するとともに、潜在保育士発掘の取組と連携して、幼稚園での長時間保育の人材確保にも取り組む。	② 預かり保育利用園児数(人)  17,540 13,840 12,926 10,656 18,000 18,685 19,370 20,055 20,749
	課題解決のために必要な要素【A】 <input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ( )	目指す値 R2 18,685
細分野の進捗度【C】	成果(進捗度選択の理由)【C】	実績値 R2 10,656
C1	預かり保育の長時間化、実施日の拡大は実現できている。幼稚園のこども園化については、全対象幼稚園で地域協議会を設置し意見の聴取は始めているが、さらに意見聴取ととりまとめが必要のため。	
多様な主体との協創による取組【C】	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法【A】	指標【C】
子育てシェアのAsMamaに、オンラインでスタイリングウイークに参加してもらい、子育てシェアに関する周知を行った。また「いこまちTV」では、政策提案で採択された足育に関する講座をオンライン開催するなど、コロナ禍でも可能な子育て支援の新たな手段について検討した。	地域で子育てを支え合う関係を構築するため、情報の発信を行う他、拠点交流会等を開催し、地域子育て支援拠点や子育て支援団体との連携をより強化する。また、子ども家庭総合支援拠点として、全ての子ども・家庭に対する切れ目のない支援を行うために、各課と連携しながら取組を進めていく。	③ 市直営拠点(みつきランド・はばたきみつき)利用者数(人)  25,922 30,040 30,731 31,438 32,161 32,901 33,658
	課題解決のために必要な要素【A】 <input type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input checked="" type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ( )	目指す値 R2 31,438
細分野の進捗度【C】	成果(進捗度選択の理由)【C】	実績値 R2 17,110
C1	従来の事業を様々な視点から改善し、地域全体で子育てを支える風土づくりを進めているものの、「5年後のまち」の実現に向けて、子育ての支援に関係する拠点や団体・市民のより効果的な連携など、更なる改善が必要であるため。	

A:5年後のまちをすでに実現している B1:5年後のまちの実現に向けて順調に進んでいる B2:5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる C1:5年後のまちの実現にはもう少し努力が必要である C2:5年後のまちの実現には努力が必要である C3:5年後のまちの実現には相当努力が必要である

【参考】R1年度分検証時の総合計画審議会からの「5年後のまち」実現に向けた提言等
・子育て層が生駒市に住みたいと思うような取組が必要。そのため、待機児童の解消や保育サービス、就学前教育、子育て支援の充実に総合的に取り組まなければならない。
・子育てを地域で助け合える仕組みづくりに取り組まなければならない。

2-2-1 学校教育

細分野	5年後のまち【P】	5年後のまちの実現に効果のあった取組(効果のあった取組から順に)【D】	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠【C】
① 学校教育	① 児童生徒一人ひとりの確かな学力を育成するために、社会総がかりで多角的な教育活動が進んでいる。	①③ ICT機器を活用し様々な教育効果の向上を図り、児童生徒が主体的・協働的に学習できる環境づくりを進めます。(教育総務課・教育指導課)	GIGAスクール構想に基づく、児童生徒1人1台タブレット端末と教室の無線LAN環境を整備した。また、ICT機器の利活用を進めるために教員向けの研修を行ったことに加え、各校での取組を共有することで情報の横展開を行いICT機器活用能力のボトムアップを行った。
		①① 全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえ、各学校において学力の向上や生活習慣等の改善に努めるなど、さらなる教育活動を推進します。(教育総務課・教育指導課)	主体的・対話的で深い学びを進めるため、キャリア教育では、コロナ禍においてもオンラインを最大限活用し、講話型、対談型、参加型等の授業を展開するなど様々な形式の授業を子どもたちが体験した。また、児童生徒1人1台タブレット端末を活用することで、児童生徒が主体的に学ぶ機会が増えた。
	市民実感度 【市民満足度調査 R2.8月実施】 「5年後のまちが実現していると思う」+「どちらかといえば実現していると思う」の割合	①⑧ 地域ぐるみの児童生徒健全育成事業により、地域でつながり合う子育てに取り組み、地域教育力で学校を支援します。(教育指導課)	地域学校協働活動をモデル校4校でスタートさせ、年度末の2月には報告会を行うことでR3年度から全校実施となる準備を整えた。モデル校においては、学校と地域が協働しながら、取組を進めることで地域と学校が両輪となって取組を進める礎を築いた。
	33.6% (参考) 前回 -%		
細分野	5年後のまち【P】	5年後のまちの実現に効果のあった取組(効果のあった取組から順に)【D】	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠【C】
② 特別支援教育	② 特別な支援を要する幼児、児童、生徒、保護者への通級指導等や教育相談が効果的に行われ、個に応じた支援や教育が定着している。	②① 特別支援教育支援員を市民から募集し、適切に配置します。(教育指導課)	通常学級に在籍する発達障害のある子どもへのサポートを行うため、就学指導委員会専門部会の調査・判断により、各学校への支援員を各校週6.5日(1.3日/日)配置し、個に応じた指導を行った。令和2年度はより支援が行き届くよう、週0.5日増加させ、個々に応じた対応を強化した。
		②④ 特別支援教育コーディネーターをはじめとする教員の資質向上を図り、研修会や講演会を開催します。(教育指導課)	年間6回の特別支援教育コーディネーター研修を実施した。講師を招き、自立活動の研修を深め、特別支援学級だけでなく通常の学級でのより良い支援の在り方を学んだ。また、交流及び共同学習の在り方について情報共有し、特別支援学級に在籍児童生徒と通常の学級の児童生徒がお互いの理解を深められるように心がけた。
	市民実感度 【市民満足度調査 R2.8月実施】 「5年後のまちが実現していると思う」+「どちらかといえば実現していると思う」の割合	②③ 特別支援教育相談に対し、様々な見地から相談対応ができるようにスクールカウンセラー等各種相談員を適切に配置します。(教育指導課)	市内小中学校の特別支援学級の児童生徒や、通常の学級に在籍し特別な支援を必要とする児童生徒及びその保護者、教員に対する教育相談を専門的知識を有する者が相談を受けた。訪問相談件数84件、巡回相談件数4回。
	25.1% (参考) 前回 -%		
細分野	5年後のまち【P】	5年後のまちの実現に効果のあった取組(効果のあった取組から順に)【D】	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠【C】
③ 学校施設	③ 子どもたちが安心して、笑顔で過ごすことができる教育環境が整っている。	③② 学校施設を使いやすく(バリアフリー化を含む)、きれいで快適なものにします。(教育総務課)	すべての市立幼稚園、小・中学校の空調整備を行うとともに、中学校8校中7校でトイレ改修工事を実施した。児童生徒が意欲を持って学ぶことができる快適な教育環境を整備することで、熱中症予防などの健康面とともに衛生面への配慮が可能になった。
		③④ 学校給食センターの整備運営事業を推進します。(学校給食センター)	中学校給食の提供を行っている既存の学校給食センターにおいて、施設・設備の更新改修及び、生駒北学校給食センターと同様にアレルギー対応食の提供に必要な施設・設備を整備するための改修整備事業(R3~R5)の実施に向けて、基本設計・詳細設計業務を実施した。
	市民実感度 【市民満足度調査 R2.8月実施】 「5年後のまちが実現していると思う」+「どちらかといえば実現していると思う」の割合	③③ 今後の児童・生徒数を踏まえた学校規模・通学区域等を検討します。(教育総務課・教育指導課)	生駒市学校教育のあり方検討委員会から、児童生徒数の減少や学校施設の老朽化、小中一貫教育の推進などを踏まえた今後の学校教育のあり方について、答申を受けた。今後は答申をもとに子どもたちの教育の充実に向けて、保護者、地域住民との協議を行いつつ、取組を進めていく。
	43.7% (参考) 前回 -%		

「市民ができること」取組状況		【市民満足度調査 R2.8月実施】	「十分取り組んでいる」+「取り組んでいる」	(参考) 前回
①	学校行事や地域行事等に参加し、子どもたちと関わりを持っている。		18.8%	-
②	特別支援教育を理解し、その教育に協力している。		5.3%	-
③	学校施設における改善点等を提案している。		4.2%	-

多様な主体との協働による取組【C】	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法【A】	指標【C】
・児童生徒の理科離れが進む中、コロナ禍においても手法を変更し先端大と連携した出前授業や体験教室等を実施した。 ・キャリア教育においても、コロナ禍の中、オンラインを最大限活用し、多くの外部ゲストや地域の方にも協力いただき様々な側面からの生き方・学び方を児童生徒は学ぶことができた。	児童生徒1人1人に応じた学校教育を進めるには、様々な家庭環境がある中で、工夫しながら個々に応じた対応が求められる。ハード整備に加え、教師をはじめとした様々な職種の人々が工夫を凝らし事業を展開する必要があるが、教員に過度な負担が集中しないよう事業の見直しやICTを活用することによる業務改善を進めながら、財源と人員の確保を図る。	① 自分にはいいところがあると思う児童生徒の割合(%)  72.6 79.3 79.8 81.0 82.0 83.0 84.0 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5
	課題解決のために必要な要素【A】 <input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ( )	目指す値 R2 81.0 実績値 R2 75.2
細分野の進捗度【C】	成果(進捗度選択の理由)【C】	
B2	ICTを活用した教育の推進や、地域との協働など5年後のまちの実現に向けた取組は進んできているところ。一方で、財源や人材の確保などの課題は残っており、社会総がかりで教育活動が進んでいる状況には道半ばであると判断し、進捗度をB2(5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる)とした。	
多様な主体との協働による取組【C】 <th>5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法【A】</th> <th>指標【C】</th>	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法【A】	指標【C】
・特別支援教育コーディネーター研修や子ども支援部会の事業内容研修などで、保護者の理解を深められるような情報を発信するよう進めている。 ・教員を志望する大学生や帝塚山大学の学生から、学びのサポートを募集し、各小中学校に派遣している。そこで各教科学習の指導補助をはじめ、障がいのある児童生徒の介助補助などを行っている。	特別な支援を必要とする児童生徒は年々増加傾向にある。通常の学級で行うユニバーサルデザインを意識した授業や個に応じた授業等、教員の指導力の向上が急務である。通級による指導を受ける児童生徒への指導時間も不十分である。通級指導教室の増設を図るとともに、インクルーシブ教育について学校を上げて取り組んでいく。	② ことばの教室・通級指導教室エルへの通級者数(人)  104 125 157 180 193 182 217 219 221 223 225 H26 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5
	課題解決のために必要な要素【A】 <input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input checked="" type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ( )	目指す値 R2 219 実績値 R2 182
細分野の進捗度【C】	成果(進捗度選択の理由)【C】	
B2	特別支援教育についての理解は年々深まっている。しかし、支援を必要とする児童生徒の増加、多忙な教師の多岐にわたる高い専門性の育成、地域と保護者の理解等課題は大きい。解決のための財源、人材不足などの課題も残っている。したがって進捗度をB2とした。	
多様な主体との協働による取組【C】 <th>5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法【A】</th> <th>指標【C】</th>	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法【A】	指標【C】
校舎の耐震化等学校施設の改修に当たっては、国庫補助金等の活用できる財源の確保についても検討をし、教育環境の整備を行っている。	学校施設は公共施設全体の約8割を占めており、その改修には多額の予算を要する。財源負担の軽減と平準化を図るため、長寿化に向けた計画的な改修の順位付けを行っている。	③ 施設の満足度(小中学校)(点)  56.6 59.4 58.0 62.0 64.0 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5
	課題解決のために必要な要素【A】 <input type="checkbox"/> 財源 <input type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ( )	目指す値 R2 62.0 実績値 R2 58.0
細分野の進捗度【C】	成果(進捗度選択の理由)【C】	
C2	校舎の耐震化やトイレの洋式化といった環境面の整備は計画的に取り組んでいるところであるが、厳しい財政状況を踏まえた施設の老朽化への計画的な対応と、市全体の学校のあり方については、早急に検討を進めていく必要があることから、進捗度をC2とした。	

A: 5年後のまちをすでに実現している B1: 5年後のまちの実現に向けて順調に進んでいる B2: 5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる C1: 5年後のまちの実現にはもう少し努力が必要である C2: 5年後のまちの実現には努力が必要である C3: 5年後のまちの実現には相当努力が必要である

【参考】R1年度分検証時の総合計画審議会からの「5年後のまち」実現に向けた提言等	
・ICT教育や英語教育に加え、コロナ禍での感染予防やリモート対応など、教員の負担がかなり増えている。ゆとりを持って子どもに接することができるよう教員に対する支援の充実にも取り組まれない。	
・今後、コロナ禍で子どものメンタル面での問題が深刻化し、不登校が増える恐れがある。そんな中でも、個別に親身に対応できる体制の整備に取り組まれない。	

2-2-2 青少年

細分野	5年後のまち【P】	5年後のまちの実現に効果のあった取組(効果のあった取組から順に)【D】	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠【C】
① 健全育成	①地域、学校、家庭が連携し、地域力を活用した支援により、子どもや若者が生き生きと過ごし、健やかに成長する環境が整っている。	①5 家庭の教育の向上、保護者への学習の浸透、拡大を図るため、地域力を活用した家庭教育支援を充実します。(生涯学習課)	令和2年度はコロナ禍の影響で学校園での親子との交流イベントは開催できなかったが、家庭教育支援チーム「たけのこ」のメンバーが主体となり、新たな取り組みとして、家庭教育等に役立つ親子向けの情報を「たけのこ通信」としてWeb(市HP)により年3回にわたり発信した。また、「たけのこ」の認知度を高めることを目的にPRチラシを作成し、学校園を通じて各家庭に配布するなど地域との連携強化に努めた。
	市民実感度	①2 健全育成パトロール等、地域ぐるみの児童生徒健全育成事業推進協議会が活動できる環境の整備・取組を推進します。(教育指導課)	令和2年6月に行われた総会をもって「地域ぐるみの児童生徒健全育成事業」が終了し、新たに「生駒市地域学校協働活動推進事業」がスタートした。新事業は、地域ぐるみの理念や長年の取組を継承し、さらに地域と学校が協働しながら地域の子どもたちを守り育てていく取組である。令和2年度は登下校の見守り活動や学校の環境整備活動、新たな放課後子ども教室「まなびいや」を新設するなどの取組をおこなった。
	「5年後のまちが実現していると思う」+「どちらかといえば実現していると思う」の割合 36.6% (参考) 前回 -%	①3 青少年が健やかに成長し生きる力を身につけるため、各種団体等と連携し、様々な学びと体験の場の提供等を行います。(生涯学習課)	様々な特技を持つ市民や市子連などの地域団体のほか、奈良高専と連携しながら、青少年向けの様々な学びや体験の機会を提供した。令和2年度はコロナ禍の影響で開催に至らない事業も多かったが、「IKOMAサマーセミナー」はYoutubeを活用したオンライン開催による新たな形での学びの場づくりを行うことで、従来の対面型授業とは異なり、「いつでも」「どこでも」学ぶことができ、事業開催後においても視聴が増加するなど新たな効果が生まれた。
②すべての子ども・若者が安心して成長できる機会が確保され、自立した社会生活を送っている。	②1 不登校、ニート、ひきこもり等に関する相談窓口の体制を整備し、相談できる環境を充実させ、地域と連携した支援を行います。(生涯学習課)	生駒市子ども・若者総合相談窓口「ユースネットいこま」では、コロナ禍を受けてZoom等を活用したオンラインによる相談にも対応するなど、引き続き、ニートや引きこもり、不登校への相談支援を行った。令和2年度の相談件数は1,088件と前年度並みで、就労支援の結果、進路決定者は14人となった。また、コロナ禍にあって可能な限り、居場所づくり事業のメニューを増やすほか家族への支援にも力を入れた。	
市民実感度	②2 「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」参加機関との連携により、不登校、ニート、ひきこもり等困難を抱える子ども・若者の自立に向けた支援に取り組めます。(生涯学習課)	市内で子ども・若者支援に携わる官民あわせて38の関係機関が参加する「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」について、関係機関同士の円滑な連携による支援に向け、情報共有のための会議を通して顔の見える関係づくりに取り組んだ。	
「5年後のまちが実現していると思う」+「どちらかといえば実現していると思う」の割合 25.6% (参考) 前回 -%			

「市民ができること」取組状況		【市民満足度調査 R2.8月実施】	「十分取り組んでいる」+「取り組んでいる」	(参考) 前回
①	地域の子どもと成長を見守り、青少年の健全育成活動に参加している。		9.4%	-
②	不登校やニート、ひきこもり等の当事者及び家族に、行政の支援窓口等の情報を提供している。		2.5%	-

多様な主体との協創による取組【C】	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法【A】	指標【C】
・家庭教育支援チームメンバーが主体となり、SNSによる発信やチームのPR活動の強化など、コロナ禍だからこそできる取り組みを積極的に行った。 ・サマーセミナーにおいては実行委員会との協働により、新たな手法によるオンライン開催に取り組むことで、従来とは異なる効果を得ることができた。	地域・学校・家庭が連携した子どもたちの健全育成については、それぞれの取り組みは着実に進めてはいるものの、連携については部分的なものにとどまっている。今後、一体的な連携やさらなる地域力の活用を図るにあたっては、各小中学校で立ち上げられるコミュニティスクールの取り組みとも大きく関わるものであり、本課が所管する事業の協働のパートナーである市民や団体の活動をコミュニティスクールの事業につなげることが効果的であるとする。	① 青少年健全育成事業参加人数(人)  目指す値: 5,500 実績値: 1,008
	課題解決のために必要な要素【A】 <input type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input checked="" type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ( )	B2 家庭教育支援チームやサマーセミナーなど、青少年の健全育成に向けた市民同士のつながりに加え、取り組みを通して学校園や地域との連携も少しずつ広がっているため。
多様な主体との協創による取組【C】	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法【A】	指標【C】
・「ユースネットいこま」では、市民や市内のボランティアと連携し、当事者の居場所づくりや就労訓練などに取り組んだ。	市内には、引きこもりや不登校などの悩みを抱えながらも必要な支援につなげていない当事者や家族は一定数存在するものと推定される。地域や学校と連携し、ニーズの掘り起こしや相談支援へのつなぎを行う。また、それにとめない相談者の増加に対応できる相談体制を拡充する。さらに、就労等の進路の選択や決定にあたっては、個人の特性や経験等を踏まえ、就労体験だけでなく、地域活動やボランティアなどの体験によって当事者の経験値を高めるなど、関係機関や団体等との連携を強化しながら、自立への出口につなげていく。	② ユースネットいこま相談者数(人)  目指す値: 97 実績値: 80
	課題解決のために必要な要素【A】 <input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input type="checkbox"/> 人員 <input checked="" type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ( )	B2 コロナ禍による来所控えもあり、相談者の実人数は目標値には達しなかったものの、相談支援や居場所づくり事業を通して自己有用感の回復や意欲の向上につなげることで、毎年、一定の進路決定へと導くことができてきているため。

A: 5年後のまちをすでに実現している B1: 5年後のまちの実現に向けて順調に進んでいる B2: 5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる  
C1: 5年後のまちの実現にはもう少し努力が必要である C2: 5年後のまちの実現には努力が必要である C3: 5年後のまちの実現には相当努力が必要である

【参考】R1年度分検証時の総合計画審議会からの「5年後のまち」実現に向けた提言等
・子どもがスマートフォンを持つことにより、インターネットがより身近になったが、利便な反面、ネット社会には闇が潜んでおり、犯罪に巻き込まれるケースも増えている。、ネットリテラシー教育等、早急に対策が求められる。 ・大人の引きこもりが多数潜在化している。まずは、顕在化させ早期に自立支援に向けて取り組まれない。

3-3-1 生涯学習・スポーツ

細分野	5年後のまち【P】	5年後のまちの実現に効果のあった取組(効果のあった取組から順に)【D】	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠【C】
① 生涯学習	①生涯学習を通じて、生きがいや楽しみを感じ、その成果が地域社会やまちづくりに還元されている。	①2 地域に眠る様々な特技や専門知識・技術を持った市民を発掘し、まちづくりに参加できる機会を提供します。(生涯学習課)	IKOMAサマーセミナーについて、令和2年度はコロナ禍の影響で対面での授業はできなかったものの、実行委員会と協働しながらYoutubeを活用して動画配信による「オンライン開催」を行うなど、コロナ禍に対応した新たな形の「学びの場づくり」に挑戦することができた。
		①3 生涯学習施設が利用者にとって快適で魅力的な施設であり続けるために、施設の管理や運営を指定管理者と連携して行います。(生涯学習課)	コロナ禍の影響により生涯学習施設は一時休館を余儀なくされ利用実績も落ち込んだが、再開後は段階的に利用制限を緩和しながら各施設への感染防止備品の設置等、様々な感染防止対策の実施を行ったほか、利用料金の減免により利用者の活動支援につなげるなど、市民が生涯学習に参加できる環境維持に力を入れた。
	市民実感度 【市民満足度調査 R2.8月実施】 「5年後のまちが実現していると思う」+「どちらかといえば実現していると思う」の割合	①5 寿大学を充実させ、高齢者の学習意欲を引き出し、まちづくりに貢献できるような人材の発掘、育成をします。(生涯学習課)	コロナ禍による8月末までの休校期間中において「ことぶき通信」を新たに発行し、学習コンテンツや各種情報の提供により、学習意欲の維持向上に努めた。再開後は、感染防止対策を講じながら、ほぼ例年並みのカリキュラムでの学習活動を行える体制を整え、新たにワークショップ形式でのボランティア入門講座を企画、実施した。
	32.1% (参考) 前回 -%		
② 図書館	②図書館が人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となっている。	②1 市民一人ひとりがだれでも身近に本と親しめる場を創出します。(図書館)	「第6回ビブリオバトル全国大会inいこま」を開催した。オンラインを活用し、コロナ禍の影響を最小限に食い止めるとともに、気軽に遠方の人に参加できるというオンラインの気づきもあり、今後のIoTを活用した事業展開のきっかけとなった。
		②2 多様な図書館サービスを提供するために、官民の諸事業との連携、情報提供に加え、ボランティアの育成と協働を推進します。(図書館)	コロナ禍のため、託児ボランティアについては延期したが、学校図書館といこま寿大学と連携し、本の修理ボランティアを養成したり、「朝活読得会」やワークショップから生まれた市民協働事業などを実施した。また、協創対話窓口により県書店組合とともにスタンプラリーを実施し、民間事業者と連携した読書推進を行なった。
	市民実感度 【市民満足度調査 R2.8月実施】 「5年後のまちが実現していると思う」+「どちらかといえば実現していると思う」の割合	②3 市民団体と協働して子どもの読書活動を推進します。(図書館)	「トライ！いこま子ども読書会議」を3回開催した。「家読にトライ！」という目標のもと、学校、地域、家庭が連携し、子どもの読書推進を進めるため、研修や情報交換を行った。参加者の中には、リレー家読を開始されるなど積極的に取り組まれるところもあり、他の参加者も先行事例を参考にしながら来年度以降の具体的な活動について話し合った。
	39.1% (参考) 前回 -%		
③ スポーツ	③スポーツを通して、健康を維持し、生きがいを実感できる環境と機会を充実させることにより、元気で笑顔あふれるまちとなっている。	③1 市民が身近な地域で気軽にスポーツ活動を行えるよう総合型地域スポーツクラブの活動内容等の周知啓発を行うとともに、各地域の実情に応じたクラブを育成します。(スポーツ振興課)	コロナ禍で総合型地域スポーツクラブの活動が縮小する中、学校などを通じて、クラブの存在や活動内容を広く知ってもらう周知啓発チラシの配布を行うことにより、認知度の向上と会員数の維持を図った。(R1:807→R2:766)
		③5 個人の年齢・性別・体力に応じた運動を行うことができるスポーツ教室やスポーツイベント等の様々な機会を提供します。(スポーツ振興課)	スポーツに興味・関心をもってもらいスポーツの裾野を広げるため、総合型地域スポーツクラブや各施設の指定管理者と連携し、新規事業「いこまスポーツの日」を開催。バルサアカデミー奈良校によるサッカー教室や、近年注目を集めるeスポーツなど、新たなプログラムを取り入れた。
	市民実感度 【市民満足度調査 R2.8月実施】 「5年後のまちが実現していると思う」+「どちらかといえば実現していると思う」の割合	③4 地域でスポーツ・レクリエーション活動が活発に行えるような環境づくりを行います。(スポーツ振興課)	コロナ禍によりステイホームを余儀なくされた市民のスポーツ機会を確保するため、現役インストラクターや、市内総合型地域スポーツクラブによる「自宅でできる運動・体操」動画を作成し、市ホームページ上で公開し、市民の継続的なスポーツ環境を整備した。
	31.0% (参考) 前回 -%		

「市民ができること」取組状況	【市民満足度調査 R2.8月実施】	「十分取り組んでいる」+「取り組んでいる」	(参考) 前回
① 生涯学習施設を活用し、施設の快適性や魅力向上につながる意見や提案を行っている。		7.1%	-
② 本に親しみ、人と本、人と人をつなぐボランティア活動を行っている。		8.9%	-
③ スポーツサークルへの参加など、定期的に運動をしている。		19.9%	-

多様な主体との協働による取組【C】	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法【A】	指標【C】						
・サマーセミナーにおいては実行委員会との協働により、新たな手法によるオンラインでの開催に取り組んだ。  ・寿大学においては、学生委員会との連携により、コロナ禍における学習活動についての協議を重ね、再開につなげることができた。	生涯学習において、学びで得た成果を地域に活かすことに関してはまだ十分とは言えないため、市内で多数行われている自主的な学習の取組の成果をまちづくりにつなげるための仕掛けを検討する。	① 生涯学習施設の利用者数(人)						
	課題解決のために必要な要素【A】							
成果(進捗度選択の理由)【C】	<input type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input checked="" type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ( )	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目指す値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R2</td> <td>R2</td> </tr> <tr> <td>1,143,000</td> <td>456,094</td> </tr> </tbody> </table>	目指す値	実績値	R2	R2	1,143,000	456,094
目指す値	実績値							
R2	R2							
1,143,000	456,094							
B2 生涯学習の広がりや、本課所管の事業に積極的に関わっていただける市民の方は増えているが、「学び」を地域活動やまちづくりにつなげるための働きかけは今後も継続的に行っていく必要があるため。								
多様な主体との協働による取組【C】	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法【A】	指標【C】						
ストーリーテリングや音訳、宅配、本の修理、ビブリオバトル、本活部などのボランティア団体のほか、市民自治協議会や、自治会等との協働により、様々な事業を実施。「まちかど図書室」については、コロナ禍のため活動を休止されることもあったが、出前で音訳等のイベントを断続的に実施した。	図書館を熱心に利用されている市民がおられる反面、本や読書、図書館に対して、関心のある人と無い人で大きな格差がある。本や読書を通して、人と人をつなぐために、図書館内だけでなく、様々な場面で市民が本を手にする機会を創出し、また、図書館職員だけでなく、市民から市民へ読書の楽しみを広げていく仕組みづくりを行っていく。	② 団体貸出登録数(件)						
	課題解決のために必要な要素【A】	<input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input type="checkbox"/> 人員 <input checked="" type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
成果(進捗度選択の理由)【C】	<input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input type="checkbox"/> 人員 <input checked="" type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ( )	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目指す値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R2</td> <td>R2</td> </tr> <tr> <td>102</td> <td>124</td> </tr> </tbody> </table>	目指す値	実績値	R2	R2	102	124
目指す値	実績値							
R2	R2							
102	124							
B2 図書館から資料や情報を提供するとともに、市民団体や民間事業者との協働により、地域に本や読書を通じたネットワークが構築されてきており、今後もさらなる充実を見込めそうであるため。								
多様な主体との協働による取組【C】	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法【A】	指標【C】						
市内の各総合型地域スポーツクラブ地域スポーツクラブへの運営会議への参加や、市スポーツ施設指定管理者との協働によるトップアスリート事業の開催など、関係団体や関係者と協働し、各施策や事業に取り組んだ。	ライフスタイルが多様化する中、様々なライフスタイルに応じたスポーツ機会を提供する必要がある。市民のだれもが個々のライフスタイルやライフステージに応じて、身近にスポーツを楽しむために、短時間で気軽にスポーツを行える環境づくりや、既存のスポーツクラブの活動やイベント等のさらなる周知・啓発とともに、新たなステークホルダーを開拓する。	③ 市、総合型地域スポーツクラブ、体育施設指定管理者等のスポーツイベントの参加者数(人)						
	課題解決のために必要な要素【A】	<input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
成果(進捗度選択の理由)【C】	<input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ( )	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目指す値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R2</td> <td>R2</td> </tr> <tr> <td>41,000</td> <td>20,050</td> </tr> </tbody> </table>	目指す値	実績値	R2	R2	41,000	20,050
目指す値	実績値							
R2	R2							
41,000	20,050							
B2 コロナ禍により、数多くの事業の中止やスポーツ団体の活動休止が相次いだ。その中において、生駒市スポーツ推進計画のあり方についての検討を行うことにより、本計画の重要施策の継続的な取組の必要性や、コロナ禍によるスポーツ環境への影響の検証など、今後のスポーツ活動のあり方について検討することができたため。								

A:5年後のまちをすでに実現している B1:5年後のまちの実現に向けて順調に進んでいる B2:5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる  
C1:5年後のまちの実現にはもう少し努力が必要である C2:5年後のまちの実現には努力が必要である C3:5年後のまちの実現には相当努力が必要である

【参考】R1年度分検証時の総合計画審議会からの「5年後のまち」実現に向けた提言等
・活動を趣味で終わらせるのではなく、周りにどのように広げていくかが重要である。 ・スポーツは、「健康づくり」や「福祉」、「青少年」など他分野と密接に関係している。縦割りで考えるのではなく緊密に関係課と連携をとり、効果的に取り組まれない。

3-3-2 歴史・文化振興

細分野	5年後のまち【P】	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)【D】	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠【C】
① 歴史・伝統文化	① 多様な施設が拠点となり、幅広い世代の市民が生駒の歴史文化に興味を持ち、住んでいる地域に愛着を持つ市民が増えている。	①4 生駒の歴史・伝統文化に関し、生駒ふるさとミュージアムホームページやデジタルミュージアム、出版物等で情報発信を行います。(生涯学習課)	令和元年度末に発行した「鷹山家文書調査報告書」及び同報告書の「発行記念講演会」を通して、本市の戦国期の理解を深めてもらう機会とした。全国各地から購入希望があり、これまで埋もれていた本市の歴史資源を市内外に公開できたことで、本市の認知度の高まりや新たな魅力発信につながったものとする。
	市民実感度 【市民満足度調査 R2.8月実施】	①3 生駒ふるさとミュージアムを拠点とし、指定管理者と連携して、世代を超えて市民が地域の歴史、伝統文化について、興味や親しみを有する機会を提供します。(生涯学習課)	ふるさとミュージアムでは夏休み期間に小学生の「勾玉づくり体験」等への参加が多くあり、同伴の保護者も含めてミュージアムを認知してもらう機会となった。また、小学校での出前授業の依頼が4校に増加するなど、子どもたちが郷土の歴史に触れる機会を多く作ることができた。また、特別展では市内の遺跡から出土した土器類を通して、企画展では生駒町役場の再現を通して、世代を超えた多くの市民に本市の歴史を知り、郷土愛を育ててもらえる機会とした。
	「5年後のまちが実現していると思う」+「どちらかといえば実現していると思う」の割合 29.7% (参考) 前回 -%	①1 市内にある有形・無形の文化財・伝統芸能の保存と活用を進めます。(生涯学習課)	市内の重要文化財である「高山八幡宮本殿」の改修事業及び県指定の文化財「宝山寺・金春家武芸関係資料」の修理事業にかかる助成を国・県とともに進め、文化財の保存に努めた。また、伝統文化や伝統芸能の伝承のための助成を行うなど、市内の貴重な歴史的文化的資源の保存、活用を進めることで、多くの市民に市内の文化財に身近に親しんでもらうことができた。
細分野	5年後のまち【P】	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)【D】	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠【C】
② 文化振興・文化活動	② 文化芸術事業を積極的に鑑賞し、文化活動に活発に参加する市民が増え、豊かな感性が育っている。	②2 市民、NPO等と行政との協働で実施する生駒らしい文化芸術の普及と市民文化の向上に寄与する事業を支援します。(生涯学習課)	コロナ禍における文化芸術事業の実施に向け、市内の文化芸術関係団体や「市民みんなで創る音楽祭」を担う市民団体、また、市民吹奏楽団等との協働のもと、感染防止対策を最優先に、市民文化祭における作品展やリベラルコンサート、市民みんなで創る音楽祭における4公演、市民吹奏楽団事業として2公演を開催し、音楽事業の開催を通して、引き続き「音楽のまち生駒」の推進に寄与した。
	市民実感度 【市民満足度調査 R2.8月実施】	②1 指定管理者と連携して、市民が文化芸術事業の鑑賞及び活動の参加を促す機会を充実します。(生涯学習課)	コロナ禍による影響を大きく受け、指定管理者による文化芸術事業は開催できなかったが、市主催の文化芸術事業の開催により、日頃の活動の成果発表の場とするとともに、市民が芸術文化に親しむ機会を提供することができた。また、指定管理者と連携し、施設の感染防止対策の徹底や利用料金の減免により、文化芸術活動を継続できる環境整備に尽力した。
	「5年後のまちが実現していると思う」+「どちらかといえば実現していると思う」の割合 31.0% (参考) 前回 -%		

多様な主体との協働による取組【C】	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法【A】	指標【C】
・「鷹山家文書調査報告書」の執筆者である学識の方々や市内の文化団体と連携し、講演会を通して本市の歴史文化の発信を行った。 ・生駒ふるさとミュージアムにおいて、指定管理者との連携や市内の文化団体等の協力を得て、本市の歴史文化、郷土学習の拠点として多様な事業を行った。	歴史文化の発信にあたっては、固定的な手法ではなく、さまざまな媒体、切り口、拠点において多面的、継続的に行う必要がある。今後、生涯学習施設との連携や、市内の関係団体、ボランティア等との協働により、多世代の市民が関心を持てるような事業展開に取り組む。また、子どもたちが関心を持つことで親世代への広がりも期待できることから、引き続きミュージアムにおける事業の工夫や出前授業への積極的な周知にも取り組む必要があると考える。さらに、歴史文化に関心を持つ市民が歴史文化発信の担い手となってもらえるような仕組みづくりに取り組む。	① 歴史文化系講座等聴講者数(人)  目指す値: 985 実績値: 885
課題解決のために必要な要素【A】	<input type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ( )	細分野の進捗度【C】
多様な主体との協働による取組【C】	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法【A】	指標【C】
・市内の文化芸術団体との協働により、市民文化祭において「作品展」及び「リベラルコンサート」を開催した。 ・「市民みんなで創る音楽祭」において、8団体からの企画提案を受け、コロナ禍による影響によりそのうち4公演を提案団体との協働により開催した。 ・市民吹奏楽団との協働のもと、市内各小・中・高の吹奏楽部の協力を得て、「いこま吹奏楽の日」を開催するとともに、市民吹奏楽団による演奏会「いこすいフェスタ」を開催した。 ・以上の文化芸術事業の開催を通して、市民の日頃の活動の成果発表の場及び鑑賞の機会とした。	これまで市民とともに築き上げてきた文化芸術事業のさらなる発展のためにも、引き続き、関係団体との協働が不可欠であり、今後の事業展開についてアイデアや知見を出し合いながら、進化させていく。また、「音楽のまち生駒」の推進に向け、音楽文化の担い手の裾野を広げる取り組みを行う。指定管理者は専門の知識やスキルを有していることから、指定管理者と連携し、文化芸術活動に親しむ市民が増えるきっかけづくりとともに、幅広い世代を対象とした良質な芸術鑑賞事業の実施等により、文化芸術活動の振興を図る。	② 文化芸術活動の参加者数(人)  目指す値: 37,000 実績値: 4,217
課題解決のために必要な要素【A】	<input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input type="checkbox"/> 人員 <input checked="" type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ( )	細分野の進捗度【C】

A:5年後のまちをすでに実現している B1:5年後のまちの実現に向けて順調に進んでいる B2:5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる  
C1:5年後のまちの実現にはもう少し努力が必要である C2:5年後のまちの実現には努力が必要である C3:5年後のまちの実現には相当努力が必要である

「市民ができること」取組状況	【市民満足度調査 R2.8月実施】	「十分取り組んでいる」+ 「取り組んでいる」	(参考) 前回
①	自分の住んでいる地域の歴史、伝統文化に興味をもち、企画展示やイベントに参加している	6.6%	-
②	文化や芸術に関心を持ち、それらに関するイベント・講座に参加している。	9.6%	-

【参考】R1年度分検証時の総合計画審議会からの「5年後のまち」実現に向けた提言等
・ふるさとミュージアムを活用し、生駒の歴史・文化を広く市民に発信されたい。